

## アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	Business Analysis Workshop
<b>代表者名</b>	経営管理研究部 教授 徳賀芳弘
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>2018 年 1 月 18 日および 19 日に国立台湾大学で国立台湾大学の教員・学生とワークショップを開催した。18 日の教員ワークショップでは、京都大学から教員 1 名の研究報告が英語で行われた。また 19 日の学生ワークショップでは、京都大学経済学部から 2 グループ(徳賀ゼミと草野ゼミ)、京都大学経営管理大学院から 1 グループ(チョルパンゼミ)、早稲田大学から 1 グループ、国立台湾大学から 2 グループの計 6 グループの研究報告が英語で行われた。</p> <p>教員ワークショップでは、草野真樹准教授より「Effects of Recognition versus Disclosure of Finance Leases on Audit Fees and Costs: Evidence from Japan」というタイトルで研究報告が行われた。また学生ワークショップでは、徳賀ゼミは、「Does AI kick out Accountants?」という報告タイトルで、人工知能の導入がもたらす、公認会計士および監査法人への影響についての研究成果を報告した。また、草野ゼミは、「The effects of shareholder perks on firm value: Evidence from Japan」という報告タイトルで、株主優待がもたらす企業価値への影響について、アーカイバルデータを用いた研究成果を報告した。一方チョルパンゼミは、「Growth Strategies for AAS Catering in Japan」という報告タイトルで、ケータリングサービス事業者の、日本におけるハラルフードビジネス等への参入を通じた成長戦略についての研究成果を報告した。この他、早稲田大学からは「Toshiba, Live or Die?」、国立台湾大学からは「Does recognition of impairment in Taiwan reflect accounting conservatism?」、 「Do investors prefer companies with more stable accounting profits? - empirical evidence from Taiwanese market」という報告タイトルで、それぞれ研究成果が報告された。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>1 月 18 日の教員ワークショップでは、草野真樹准教授の報告に対して、国立台湾大学の教員より多数の質問・コメントが寄せられ、活発な議論が交わされた。また 19 日の学生ワークショップでは、京都大学の徳賀ゼミ・草野ゼミ・チョルパンゼミの報告に対して、国立台湾大学の教員・学生より疑問点や分析が不十分な点に関して、質問やコメントがあり、多くの有益な示唆を得た。とりわけ、ゼミ内だけでは得られない質問やコメントなどが多数あり、大変有意義なワークショップとなった。さらに、国立台湾大学や早稲田大学の研究報告に対し、京都大学の学生より質問・コメントを行い、活発な議論を行った。</p> <p>本ワークショップを通じて京都大学の学生は、普段大学内では経験することの少ない英語での研究報告や質疑応答の機会を得ることができた。このような経験を通じ、英語でのコミュニケーション能力の向上を図り、より実践的なプレゼンやディベート能力を養うことができた点は、大きな研究・教育成果である。各ゼミとも、このワークショップで提起された質問やコメントを踏まえ、研究を改善し、レポートなどで最終的な研究成果を纏めていきたい。また、ワークショップの前後には学生同士で懇親会や市内観光などの国際交流の場を設けることもできた。英語での国際交流を行う機会の少ない日本の学生にとって、社会に出る前にこうした経験を積むことは大変貴重である。あらためてアジア研究教育ユニットの助成に対し、感謝申し上げる。</p>